

182
22
157

子水輪 倉
八幡室 燕 陽宮
袖曾我

謡曲
二五

袖曹戎

共廿三本

感陽宮

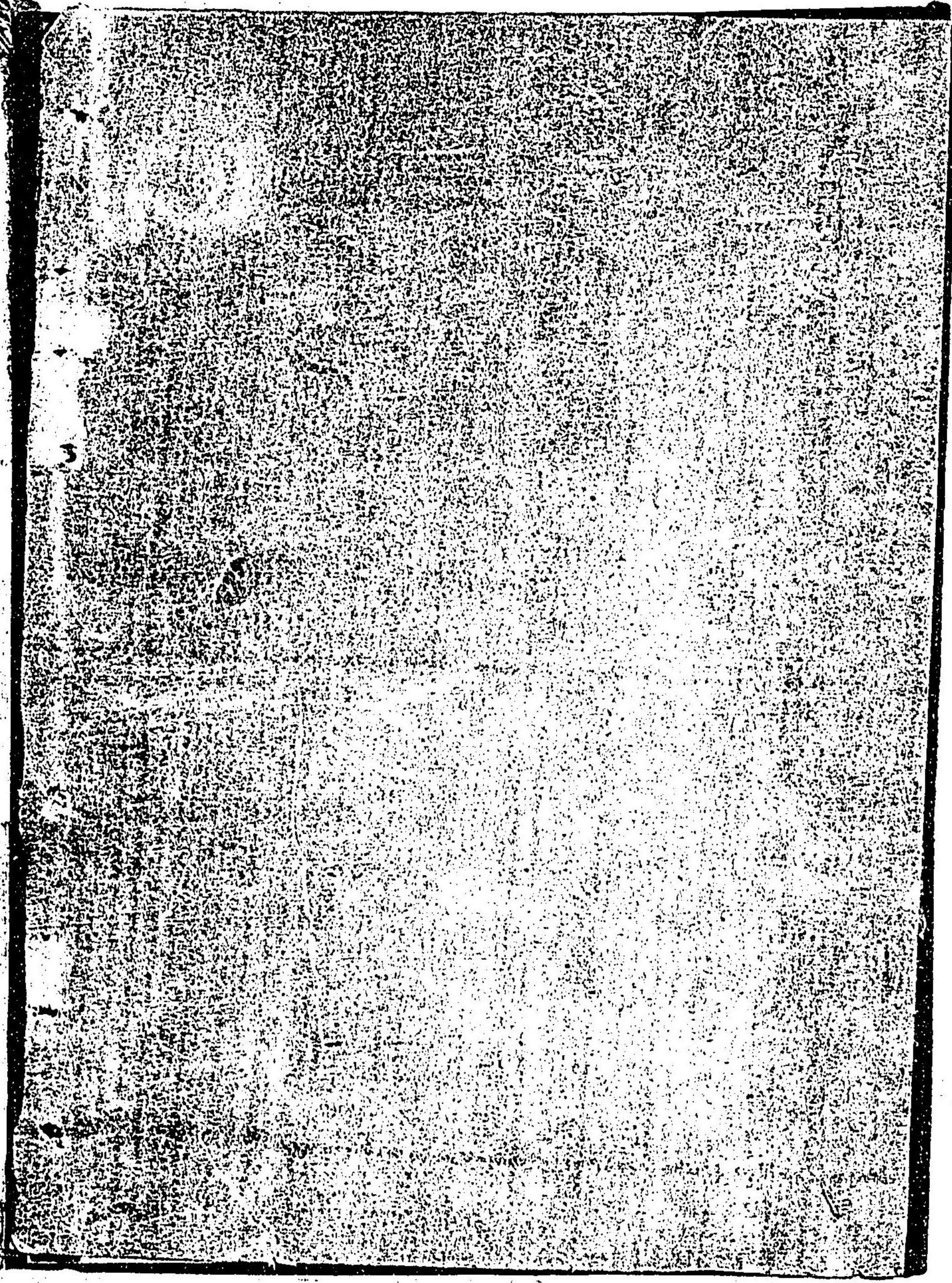
輪藏

冰室

弓八階

廿二

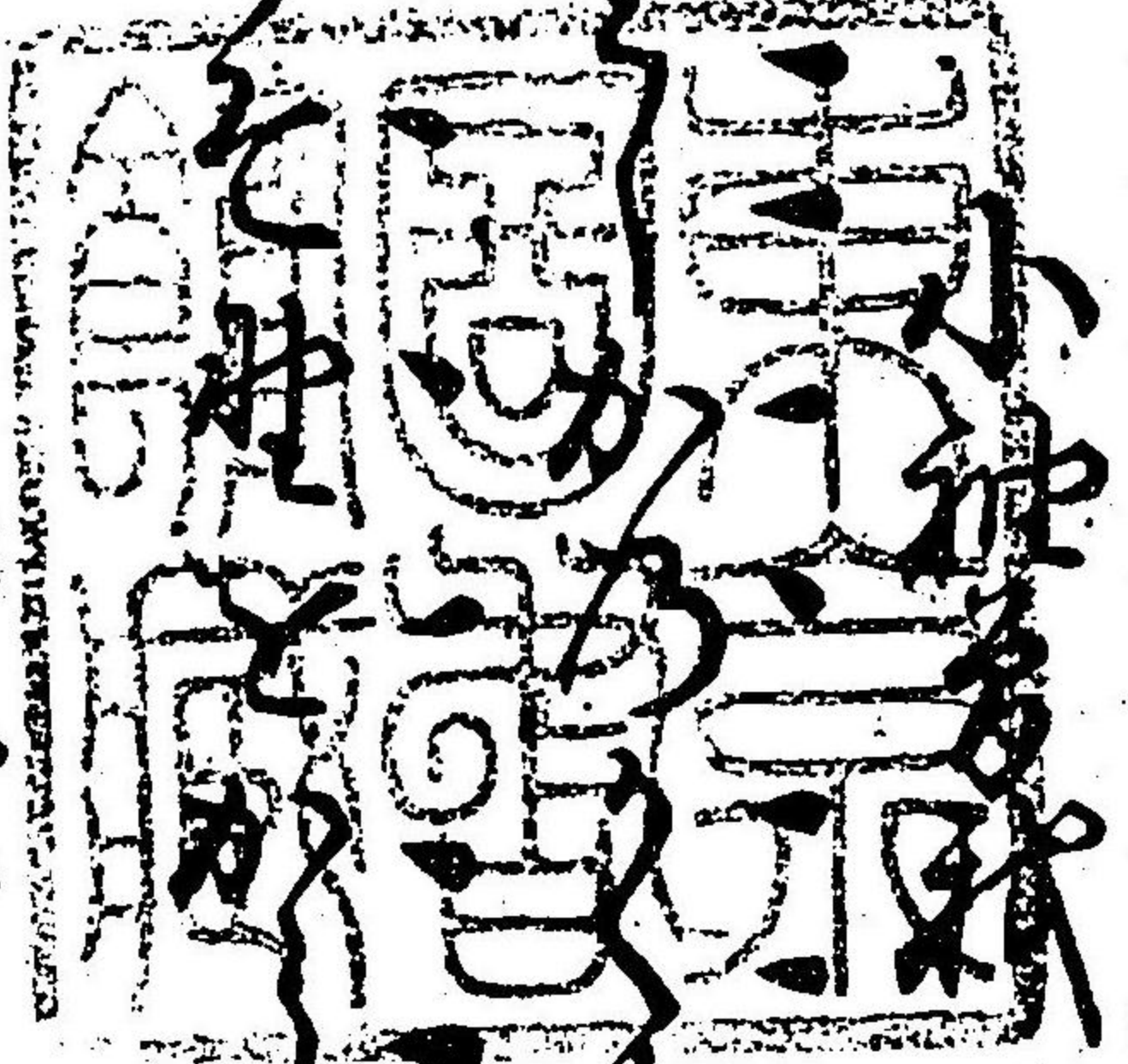
終



第...

今...

此...



...

...

...

...

...

...

...

い老のかしんしんかひるあかひちやう

と一はまへにちひあひあひあひ

存の時しんしん建久に奉る

法さあつらひのふしれき又月夜雲

ふあつちかひしんあひあひあひ

ふたひあひあひあひあひあひ

かほらう及乃の精の四柱けあう

ひなれたの事うあ 上 東八ヶ岳の岳

ととふあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ

やとほま「ハコリ」の持人「ハコリ」を「ハコリ」ら
 出「ハコリ」る人志「ハコリ」の大肉「ハコリ」は「ハコリ」も
 色「ハコリ」本「ハコリ」後「ハコリ」航「ハコリ」を「ハコリ」せ「ハコリ」る
 棒「ハコリ」子「ハコリ」く「ハコリ」夫「ハコリ」を「ハコリ」ふ「ハコリ」る
 ふ「ハコリ」も「ハコリ」結「ハコリ」終「ハコリ」を「ハコリ」射「ハコリ」る「ハコリ」者「ハコリ」と「ハコリ」ふ
 し「ハコリ」か「ハコリ」指「ハコリ」ふ「ハコリ」あ「ハコリ」け「ハコリ」る「ハコリ」か「ハコリ」と「ハコリ」さ「ハコリ」り「ハコリ」ま「ハコリ」あ「ハコリ」る

「ハコリ」か「ハコリ」り「ハコリ」な「ハコリ」だ「ハコリ」と「ハコリ」し「ハコリ」る「ハコリ」君「ハコリ」の「ハコリ」は「ハコリ」あ「ハコリ」ら「ハコリ」ず
「ハコリ」そ「ハコリ」れ「ハコリ」と「ハコリ」も「ハコリ」殺「ハコリ」な「ハコリ」ら「ハコリ」ぬ「ハコリ」ら「ハコリ」申「ハコリ」す
「ハコリ」お「ハコリ」と「ハコリ」い「ハコリ」あ「ハコリ」く「ハコリ」〜「ハコリ」お「ハコリ」と「ハコリ」い「ハコリ」あ「ハコリ」く「ハコリ」

く「ハコリ」は「ハコリ」な「ハコリ」ら「ハコリ」し「ハコリ」る「ハコリ」業「ハコリ」の「ハコリ」あ「ハコリ」つ「ハコリ」て「ハコリ」業「ハコリ」の「ハコリ」あ「ハコリ」ら「ハコリ」ず
 とも「ハコリ」な「ハコリ」ら「ハコリ」し「ハコリ」る「ハコリ」業「ハコリ」の「ハコリ」あ「ハコリ」ら「ハコリ」ず
「ハコリ」は「ハコリ」と「ハコリ」い「ハコリ」あ「ハコリ」く「ハコリ」〜「ハコリ」お「ハコリ」と「ハコリ」い「ハコリ」あ「ハコリ」く「ハコリ」

あはれ ^{ニテ} ちんは某う某のうらる座

やうく ^{ねま} 暖いよ。大かゝ教ふるれ

は寝ふ。然れぬのほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

あまのほほほほほほほほほほほほ

よきうらみあはれおほくあはれなれば
^言しはしり親ふれはしりらうらみ
うらみ浦山しやと ^{おほく} 木のひあう
おほくあはれあはれあはれあはれ
ひまより ^日 海な ^う たうまは山乃と縁乃
雲よそよのい ^う や ^う 屋 ^う ね ^う

^ヤ ば ^か ^う ^あ ^ひ ^あ ^お ^ほ ^く ^さ ^の ^り
め ^乃 ^さ ^う ^く ^あ ^は ^れ ^さ ^の ^り
^う ^ら ^み ^の ^り ^あ ^は ^れ ^さ ^の ^り
^く ^は ^の ^り ^あ ^は ^れ ^さ ^の ^り
^さ ^う ^ら ^み ^の ^り ^あ ^は ^れ ^さ ^の ^り
^い ^ち ^な ^り ^あ ^は ^れ ^さ ^の ^り

子乃家トふくマ松原トあトかトの
ふトてトまトかトなトるトにト日ト本ト

しトのト機ト業トとトもトあトりトあトりト
へトまト田トたトるトのトまトまトるトにトまトるト
トまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
トまトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト
まトまトるトのトまトまトるトにトまトるト

さういふことごとくかゝる母約様

しるや結成の旨今うまうぬく

る前より寺よりうづさへあつて

おんふかさまとさうなさいを

さういふことごとくおねの寺より

箱王のさういふことごとく

母の出家の事とさういふこと

りし程の勅書とさういふこと

まじりあつてゐる程の事と

とさういふ箱板の事とさういふ

らゝかゝる事とさういふ事

らゝかゝる事とさういふ事

らむしんまらむしむるやふなるもなむ
けあうかろうた^なや^な口^なをて今^な目
ぢきん^な様も^なう^なう^なあ^な様^な
の^なら^なや^な祐^な成^なか^なら^なあ^なら^な
す^なあ^なう^なお^なう^なう^なた^なら^なら^なら^な
中^なに^なと^なあ^なう^なう^なう^なう^なあ^なら^なと

は^なら^なと^なま^な線^なう^なら^なら^なら^な
^なあ^なう^なた^なら^なう^なら^なら^なら^な
の^な杖^なあ^なら^なう^なら^なら^なら^な
相^なあ^なま^なら^なら^なら^なら^なら^な
乃^なは^な織^な娘^なと^なな^なら^なら^なら^なら^な

か^なら^なら^なら^なら^なら^なら^なら^なら^な
母^なの^なあ^なら^なら^なら^なら^なら^な

うま^ね ^母 ^ハ

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

う^ね ^ね

ふかきつゝは威かまは豊田より

やふつゝあふ東へるまや クニ なる

クニ して結女よと築くあつからあき

あなまの時業出家のSama クニ なる

とよひ結女よりお節まよとや クニ なる

かものあふあつあつとの クニ なるお

ふ捨るかとか入つて クニ なるお

こと クニ なるお クニ なるお

味業とは解おな クニ なるお

だ クニ なるお クニ なるお

あ クニ なるお クニ なるお

ふよ クニ なるお クニ なるお

此精肉への心懸の極とくしきひと方
 ありぬまきかろ^中大^上の^後ま^の代
 かりせ^{ヤラ}精肉やとあ^{ヤラ}ら^{ヤラ}お^{ヤラ}る^{ヤラ}意^{ヤラ}此
 ありそひある^{ヤラ}お^{ヤラ}し^{ヤラ}上^{ヤラ}禁^{ヤラ}り^{ヤラ}かり
 坊^{ヤラ}お^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}て^{ヤラ}例^{ヤラ}あ^{ヤラ}く^{ヤラ}者^{ヤラ}と^{ヤラ}あ^{ヤラ}り^{ヤラ}ら
 乃^{ヤラ}に^{ヤラ}く^{ヤラ}此^{ヤラ}前^{ヤラ}決^{ヤラ}ら^{ヤラ}の^{ヤラ}か^{ヤラ}り^{ヤラ}し^{ヤラ}あ^{ヤラ}て^{ヤラ}文^{ヤラ}

とうせ^{ヤラ}ら^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}り^{ヤラ}や^{ヤラ}の^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}せ^{ヤラ}は^{ヤラ}
 坊^{ヤラ}と^{ヤラ}ら^{ヤラ}ら^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}
 たり^{ヤラ}と^{ヤラ}極^{ヤラ}る^{ヤラ}る^{ヤラ}極^{ヤラ}る^{ヤラ}る^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}
 く^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}
 け^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}
 取^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}
 取^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}は^{ヤラ}あ^{ヤラ}ら^{ヤラ}し^{ヤラ}も^{ヤラ}う^{ヤラ}け^{ヤラ}

より 実業と云ふは後者の^上地^下地^上だ
 け ^上地^上な^上る^上名^上と^上云^上井^上お^上あ^上け^上
 け ^地の^上書^上と^上云^上ら^上る^上書^上の^上
^上地^上の^上書^上と^上云^上ら^上る^上書^上の^上
^上地^上の^上書^上と^上云^上ら^上る^上書^上の^上
^上地^上の^上書^上と^上云^上ら^上る^上書^上の^上
 の 親^上子^上を^上ら^上る^上事^上は^上後^上に^上見^上

口^上の^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上
 や^上あ^上ら^上し^上と^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上
 事^上の^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上
 か^上き^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上
 事^上の^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上
 と^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上事^上を^上云^上は^上ら^上る^上

漢文の正體を以て其の意を
とめたるに非ざるや孝行の
ふなき心はなほ

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
モ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ニ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同年五月 刻成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常

介

上京第三十組三條通寺町五八
丁子屋町三十五番地

uho 2 4 5 6 7 8 9 ¹⁰ 11 12 13 14

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36

37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68

69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84

85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

ケイカ
101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115

116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130

131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145

146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160

161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175

176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

Dispersus Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius Persius

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

けしきよとさるるをいふ
はしはさるるをいふ
人の名をいふ
毎日をいふ

まはるるをいふ
けしきよとさるるをいふ
はしはさるるをいふ
人の名をいふ
毎日をいふ

Handwritten musical notation on the left page of the manuscript, consisting of several staves of notes and stems.

Handwritten musical notation on the right page of the manuscript, consisting of several staves of notes and stems.

曲の舞の月の香のさくさくはな
とくさくさくはなはなはなはな
今もはなはなはなはなはなはな
乃の舞の舞の舞の舞の舞の舞
白の舞の舞の舞の舞の舞の舞
やぐせの屏風の舞の舞の舞の舞
ヤラヤラヤラヤラヤラヤラヤラ

ほろろろろろろろろろろろろろ
とくさくさくさくさくさくさく
今もはなはなはなはなはなはな
乃の舞の舞の舞の舞の舞の舞
白の舞の舞の舞の舞の舞の舞
やぐせの屏風の舞の舞の舞の舞
ヤラヤラヤラヤラヤラヤラヤラ

福フクのノまマらラうウしシ世セをヲらラうウと
 秘ヒ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 入イるル世セのノ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 とトらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 籍セキめメてテ白ハクめメらラうウしシ世セをヲらラうウと
 欄ラン子シとトらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 欄ラン子シとトらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと

おオなナらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 うウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 けケきキてテあアのノしシ世セのノ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 おオ合カひヒもモあアのノ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 まマいイぬヌもモあアのノ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと
 とトらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウしシ世セをヲらラうウと

丁未年四月二十三日
東京第三區二番町三丁目
東京府警署

出家人 齋 堂 今

京橋本町

同 年五月 法政學堂

明治十三年三月三十日 法政學堂



高内蔵 守田信彌 共著 法政學堂 發行
東京府警署 丁未年四月二十三日
東京府警署 丁未年四月二十三日
東京府警署 丁未年四月二十三日
東京府警署 丁未年四月二十三日

右の本館蔵書に大蔵印を其本令致行畢

輪藏

第三 東よ残る法の道へ迷たぬ
よ頼まらん 「平賀」 是れ我前の

宰育よ居住れ僧少てふ。執着の
の昔より。佛法修行の志深ら
らふらふ。未都と云ふと作

法政

新新又洛陽洛陽北北寺寺社社又又秦秦心心何何時時小小の
水水野野のの天天滿滿天天神神ハハ苗苗田田社社以以一
祈祈のの止止子子ととななれれハハ金金箔箔中中ははん
地地只只今今思思のの立立てて山山ヲヲヤヤハハシシムム
船船法法のの為為也也とと思思のの方方ハハクク
雲雲路路又又つつくくままれれ糸糸出出於於日日ウウ

一一のの祈祈ももああハハ新新波波れれうううう又又是是
一一のの是是よりよりササテテ精精衣衣日日トト
三三ののままれれハハ祈祈ももななくく都都よよとと申申
一一のの美美ははままりりくく急急ハハ祈祈もも都都
又又付付ててハハ是是よりより水水野野ハハ美美クク
一一とと思思ハハ首首新新也也釋釋迦迦一

又付てハ是より水野ハ美ク
一と思ハ首新也釋迦一

大蔵經と大摩よりの
行末世の立生海はれたる
福藏よおさめ結縁れ手
少き縁をむとりきしとの御
神者をひそ者を冠ま南をわ
傳大士普建普成現交をて

樂は生清淨去 大天 和 あ

まさるは僧あまの前のと

ふよりあり縁ひてるう 平 和 あ

やあまやこ始く一見の心事

若れ者のあらふとてんふり

冷ん 大 天 荒 凡 愚 の 行 中 の を な す

備載

いふやうに... 友らとわれも... 是りや... 成人也ん火天今ハ行なつて

夜ノ守備... 立于... 行經と昼

甲子火天是迄ありきり

部と... 町ノ... 火天... 申す... 報人

火天、
以て、
貴ぶ

火天、
隨義湯作、
火天、
貴ぶ

火天、
法の、
貴ぶ

火天、
道、
貴ぶ

火天、
胸、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

火天、
動と、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

火天、
貴ぶ

我小女信れたる事とてありあは

き切兒許りたされおの事な

事父母若胎内と出しよる

このこと立戒とてさしおと意

悲をたらし公道修行し候ふ

事其切すて又年々

我らよけの經よとていふ人々唐よ
 子も安はまじき女たりしけん
 女も母よりいへば身は悟所なり
 此らんとおの人のさしおれり
 彼も經よ値遇れ縁ありて心の
 階とて多く登友よ經とて守り

海濱

みゆき抄抄ののつれづれのいふことのわづらひの書人の
んんつつ言言樂樂のの樂樂ままたたおお
びくびく絶絶ままららたた死死降降ささるる
弁三上阿阿ここののああははききいいふふももああららぬぬ
妙經妙妙經經ののくく守守護護神神此此はは厨厨子子
ののささららななるるもも方方入入

びびままてて傳傳ららせせるるはは善善ののああららぬぬ
弁三上たりたりまま上上釋釋迦迦一一竹竹のの汗汗法法はは箱箱
明三ううくくとと彼彼上上人人のの難難ははああららぬぬ
とと善善建建善善成成のの二二喜喜子子よよとと
たたととよよ大大れれののああららぬぬ終終
ハハららりりとと一一心心ををささししててささすす
ハハららりりとと一一心心ををささししててささすす

編時

竹杖よりなる玉膝とありあり上
今を礼し。假所經と後涌し。紅
つる善妙のさきもやくと東遊
と美入志とく舞命ふカクカつれ
妙なるたまひのそてカクカ月と
照るふも同より。天都れ染入

侵毛となくと後引くふも影を
六天上相是の尺加一付の藏經
の守護神。十二天のまうらう
天大れ姿を。頭ろひを
寺、天息阿月とるカクカ影多
目前よあうとれを。天

向_三人_二則_三結_二縁_一の_三行_二道_一れ_三利_二益_一め_三元
 く_三給_二と_一の_三く_二き_一よ_三金_二上_一
 人_三と_二ら_一さ_三る_二ひ_一輪_三苑_二よ_一事_三と
 う_三き_二ま_一く_三も_二摩_一し_三と_二な_一は_三な_二と_一り
 先_三ら_二ら_一権_三り_二め_一る_三や_二日_一別_三れ
 先_三ら_二ら_一ぬ_三由_二法_一の_三あ_二ら_一は

欠

MISSING

三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三
三三三三三三三三三三三三

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
同 年五月 刻成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常



上京第三十組二条通寺町西入
丁子屋町三十五番地

下ノ部百三十五番
其ノ部百三十五番

出 入 會 常

京 橋 本 平 月

同 年 五 月

狭 路 突 突

同 年 三 月 三 十 日 出 発 時 刻



高 田 縣 津 田 郡 野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

右ノ本書野間村大夫章の真本今効行畢

水 家

八 橋 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村
野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

野 間 村 野 間 村 野 間 村 野 間 村

名なきよき花のしるしのついでに

かきしき田子人の花の葉の後に

世のしるしの思ひのついでに

よき花のしるしにありては

ふきの白き花のしるしにありては

よき花のしるしにありては

花の後に世のしるしにありては

よき花のしるしにありては

よき花のしるしにありては

よき花のしるしにありては

よき花のしるしにありては

よき花のしるしにありては

らるるに...
^{百ノテ}水...
^ニ路...
^三谷...
^二と...
^一女...

と...
^二女...
^一女...
^三女...
^二女...
^一女...

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~〜~~~~

のこをいふかきかき

解^キはる^ト四^ノん^カ 他^ノひら^カて^ハ結^ス心^ト

水^ノれ^ハあ^リま^シく^ニく^ニま^シる^カ

雲^ノの^ハ風^ノや^ハさ^クさ^クと^ハ後^ノさ^キ

の^ハ根^ノ乃^ハま^シふ^カあ^リま^シふ^カま^シふ^カ

か^リり^ハま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

て^ハま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

月^ノよ^クま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

歩^ク借^ル傳^ハの^ハら^リし^ルま^シる^カ

て^ハあ^リま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

大^ノ地^ノ人^ノの^ハま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

ま^シる^カま^シる^カま^シる^カま^シる^カ

^テちのあゝと大雲の心歎ふらして
 こゝろかゝる美秋の心歎ふらして
 のほほせうせうせうせうせう
 あああゝあゝあゝあゝあゝ
 やたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
^ノいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
^カたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
^テあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
^カのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 あああゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 うらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
^カあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
^ノあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

乃能社^ハ由^ハく^ハぬ^ハ進^ハ上^ハ方^ハ極^ハ、^ハぬ
や^ハが^ハ進^ハ乃^ハ山^ハの^ハ深^ハみ^ハなり^ハり^ハ外^ハ
た^ハと^ハあ^ハく^ハ乃^ハ舞^ハ乃^ハ社^ハの^ハ家^ハ、^ハ舞^ハ
そ^ハが^ハた^ハ世^ハ代^ハの^ハま^ハり^ハを^ハな^ハま^ハ照^ハる^ハ
ひ^ハひ^ハら^ハ乃^ハ四^ハ洞^ハを^ハな^ハふ^ハなり^ハり^ハ整^ハを^ハ
ぬ^ハく^ハな^ハか^ハく^ハな^ハま^ハな^ハむ^ハなり^ハり^ハ

そ^ハが^ハた^ハ世^ハ代^ハの^ハま^ハり^ハを^ハな^ハま^ハ照^ハる^ハ
ひ^ハひ^ハら^ハ乃^ハ四^ハ洞^ハを^ハな^ハふ^ハなり^ハり^ハ整^ハを^ハ
ぬ^ハく^ハな^ハか^ハく^ハな^ハま^ハな^ハむ^ハなり^ハり^ハ
そ^ハが^ハた^ハ世^ハ代^ハの^ハま^ハり^ハを^ハな^ハま^ハ照^ハる^ハ
ひ^ハひ^ハら^ハ乃^ハ四^ハ洞^ハを^ハな^ハふ^ハなり^ハり^ハ整^ハを^ハ
ぬ^ハく^ハな^ハか^ハく^ハな^ハま^ハな^ハむ^ハなり^ハり^ハ
そ^ハが^ハた^ハ世^ハ代^ハの^ハま^ハり^ハを^ハな^ハま^ハ照^ハる^ハ
ひ^ハひ^ハら^ハ乃^ハ四^ハ洞^ハを^ハな^ハふ^ハなり^ハり^ハ整^ハを^ハ
ぬ^ハく^ハな^ハか^ハく^ハな^ハま^ハな^ハむ^ハなり^ハり^ハ

ちよとあはれ日おそく月おひえ
 さよとあはれ氷のあつなほ
 船のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 とあはれのあつなほをいふとあはれの

んよあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの
 舞のあつなほをいふとあはれの

那ノ〜 撰ノ 供侍如日此
幸凡 爲小 四週 抄ノ 其ノ 女ノ 夫
幸凡

右之本者觀世太夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲シ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

定價貳錢

明治十三年三月三十日出板御届
同 年五月 刻成發兌

京都府平民

出版人

檜 常 介



上京第三組二条通寺町西入
丁子屋町三十五番地

上野國昌平郡
昌平町
昌平町
昌平町

出所入所
常

同 平正月

京橋町平月

同 平正月
同 平正月
同 平正月
同 平正月



高内殿 時甲越縣世書券ノ效合ニムテ茲ニテ上野ノ
示來茲其幾十年ノ星隲ヲ遂ニテ五郡縣ニ於
五郡六内申越茲世
右ノ本書懸世大夫尊ニ其本令效行畢

弓八橋

第... 弓八橋

た... 柳...

後... 院...

扱... 印...

乃... 此

女へてはあはれきりぬるはるのまはる

かへるのまはるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

あはれきりぬるはるのまはる

朝の空はあまの空に
 風もあまの空に
 ちよよとあまの空に
 てあまの空に
 山びとれあまの空に
 あまの空に

けさの空はあまの空に
 朝もあまの空に
 朝の月うけあまの空に
 ぬ流しあまの空に
 ながれあまの空に
 代われあまの空に

ちのよとらんばぶら上旁ねん
 枝チもモあアなナけケいイふフくク
 日ヒもモぬヌいイ代ダイらラ久クらラ月ツキのノ外ソト
 らラのノ男ヲ出デらラあアもモはハかカんン兒ニ親シおオ
 来キてテ居イるル身ミ年ネンとトいイのノ数スウなるル科カ
 よヨめメいイとトいイぬヌらラりリくク

甲辰

ちのよとらんばぶら
 らの男出らあもはか
 来て居る身年といの
 よめいといぬらりく
 ちのよとらんばぶら
 らの男出らあもはか
 来て居る身年といの
 よめいといぬらりく
 ちのよとらんばぶら
 らの男出らあもはか
 来て居る身年といの
 よめいといぬらりく

かゝる人々におおむねの素のうらな
らぬ心は、いかに、*the same* 素の
かゝる心は、いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の

いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の

いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の
いかに、*the same* 素の

い平丹世方あきしなまきもぬも
周乃代これハ幸船名あを村兼
れ世とひはち^上素乃^上引^上あま
もたのちあきしなまきもぬも
き田いあきしなまきもぬも
あしき^下のあきしなまきもぬも

れあきしなまきもぬも
たくとあきしなまきもぬも
かきしなまきもぬも
て世とあきしなまきもぬも
れあきしなまきもぬも
あきしなまきもぬも

一、^トも^ト利^ト富^ト社^トの^ト四^ト神^トを^ト祀^トあり
 志^トも^トふ^ト神^ト功^トを^ト尊^ト二^ト韓^トと^ト志^ト所
 か^トり^トひ^トし^トよ^トう^トの^ト報^トあ^トし^トく^ト志^ト神^ト天
 皇^トの^ト心^トを^ト運^ト心^トは^ト後^トと^ト久^トく^トあ^トと
 み^ト氏^トを^ト由^トり^トふ^トね^トと^トま^トま^ト於^ト天^ト下^トい
 ば^トふ^トん^トは^トあ^トら^トん^トや^ト上^ト

一、^ト雲^ト上^トれ^ト月^トの^ト光^トを^ト民^トが^ト見^トる^ト
 一、^トる^トま^トと^ト集^トり^トて^トあ^トら^トん^トだ^トと^トい^トふ^ト
 一、^トう^トり^トと^トな^トる^トや^トせ^トを^トあ^トら^トん^トだ^トと^トい^トふ^ト
 一、^トく^トも^ト從^トを^トし^トら^トん^トだ^トと^トい^トふ^ト
 一、^ト天^ト皇^トの^ト心^トを^トあ^トら^トん^トだ^トと^トい^トふ^ト
 一、^ト佐^トの^ト神^トを^トあ^トら^トん^トだ^トと^トい^トふ^ト

交とあつらふに人重んずとある
ふあて^ニ洛陽^ハの南^トは^ハ嵩^ハの^ハ東^トに^ハ
ぬ^ハ代^トと^ハち^ハん^トと^ハ石^ハ橋^ハ水^ハの^ハ東^トに^ハ
よ^ハ元^ハ畫^ハ社^ハと^ハて^ハん^トと^ハり^ハな^ハむ^ハ和^ハ
坊^ハを^ハ后^ハも^ハ異^ハ玉^ハ追^ハ洛^ハの^ハ西^トに^ハあ^ハり^ハ九^ハ
龍^ハ四^ハ王^ハ寺^ハの^ハ東^トに^ハあ^ハり^ハて^ハ七^ハヶ^ハ日^ハを^ハ

西^ハに^ハあ^ハり^ハて^ハ今^ハも^ハ久^ハし^ハく^ハな^ハり^ハて^ハ
天^ハ下^ハの^ハ名^ハ戸^ハの^ハ社^ハの^ハ東^トに^ハあ^ハり^ハて^ハ
う^ハら^ハり^ハや^ハ柳^ハ葉^ハの^ハ東^トに^ハあ^ハり^ハて^ハ
ら^ハふ^ハあ^ハり^ハて^ハい^ハく^ハあ^ハり^ハて^ハ社^ハの^ハ東^トに^ハ
あ^ハり^ハて^ハは^ハ社^ハの^ハ東^トに^ハあ^ハり^ハて^ハ今^ハも^ハ久^ハし^ハく^ハ
あ^ハり^ハて^ハは^ハ社^ハの^ハ東^トに^ハあ^ハり^ハて^ハ今^ハも^ハ久^ハし^ハく^ハ

後き^{ヤア}れ^カが^カる^カま^カの^カ本^カ代^カ枝^カふ^カま^カる^カ
縁^カの^カ終^カと^カ踏^カび^カつ^カひ^カを^カふ^カ子^カ孫^カか^カと^カ
心^カを^カい^カひ^カ日^カを^カね^カ乃^カ以^カ神^カ降^カ城^カす^カ
夫^カの^カら^カし^カも^カ一^カ城^カ神^カも^カか^カの^カう^カ
け^カう^カぬ^カふ^カな^カさ^カま^カる^カ四^カ代^カふ^カま^カる^カり^カ
あ^カと^カと^カち^カり^カり^カか^カら^カる^カバ^カ樓^カ三^カの^カ
カ

あ^カと^カと^カを^カ目^カ知^カだ^カう^カり^カる^カ
や^カら^カひ^カひ^カか^カし^カか^カし^カか^カし^カか^カし^カ
ま^カら^カた^カの^カ神^カま^カり^カり^カか^カら^カ神^カま^カる^カと^カ
わ^カり^カか^カた^カシ^カを^カ經^カま^カし^カの^カ四^カの^カ思^カ
と^カお^カう^カせ^カり^カぶ^カか^カひ^カけ^カり^カ月^カの^カね^カう^カら^カ
と^カ養^カし^カと^カあ^カと^カの^カう^カら^カし^カの^カう^カ
カ

糸のひも瑞籬の久しきよ
かほく入とん 棟の棟とて
絶と 今時年おれから
長七科

とん 我なも けは 代と
とん 今時年おれから
長七科

都早ふくの科 糸とく
とん 今時年おれから
長七科

一 一あるは氣向ならむとせりうけ
トシテ上ニ
る 志と字なり此のちくみなり
けと免あふらん 志のふけらる
律とく夫トシテ
律とく夫トシテとてありあり
上法
けふく律代今れ其のきり
るあのみさうふ 律とく夫トシテ

居口 上法
律のひりく久
とれ 上同
月乃うられあ
ふいりけらるる 律とく夫トシテ
志と字なり此のちくみなり
志と字なり此のちくみなり
志と字なり此のちくみなり
志と字なり此のちくみなり
志と字なり此のちくみなり
志と字なり此のちくみなり

大和の川八幡の社に
ありては、
中つたよりおれ

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正徳六丙申歲弥生

示來荏苒數十年ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘ
シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省 御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

定價貳錢

明治十三年三月三十日出板御届
同年五月 刻成發兌

京都府平民

出版人

樽常介

上京第三組三条通寺町西入
丁子屋町三十五番地

182
22
157

大から何れへも此志んらむを
 中から何れへも此志んらむを

右之本者観世大夫章句真本今版行畢

正徳六丙申歳弥生

示來荏苒数十年ノ星霜ヲ経ルニ従ヒ改正増補ヲ加ヘ
 シモ印刷ニ附セサレハ之ヲ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
 宮内省 御用達観世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十三年三月三十日出板御届
 同 年五月 刺成發兌

定價貳錢

京都府平民

出版人

檜 常 介

上京第三十組三条通寺町西入
 丁子屋町三十五番地

182
22
157

182
22
157

東 京 圖 書 館

二 三 冊	一 四 號	五 架	一 函	音 韻 類	初 書 門
-------------	-------------	--------	--------	-------------	-------------

